

# 令和6年度第1回庄原市外国語教育研修会

令和6年7月3日（水） 庄原市立東小学校

<研修会の目的>

- ・ 小学校外国語科の授業研究を通して、本市小学生の実態及び小学校の取組を知るとともに、児童生徒のコミュニケーション能力の育成に向けた指導方法の在り方について研究を深める。
- ・ 外国語科の授業づくりのポイントについて理解を深めるとともに、校区内の小学校、中学校の取組や状況について協議することを通して、本市外国語教育の充実に資する。

【研究授業】第6学年 Unit3 「My Weekend」

授業者 庄原市立東小学校 教諭 滑 祐斗、ALT Caroline Jose

**本時の目標**

お互いのことをよく知るために、週末にしたことについて伝え合おう。

<指導のポイント>

☆本時のゴールを想起させ、思考を深めさせる中間指導

⇒やり取り→中間指導→やり取りを繰り返す中で、本時のゴールである「お互いをよく知る」ためには、どのような内容をどのように伝えたらよいか、内容面や言語面から児童に考えさせ、思考を深めさせる。また、中間指導で学級担任とALTが2つのデモンストレーションを見せ、やり取りのポイントに気付かせる。

☆ALTと連携した効果的なチーム・ティーチング

⇒ALTと事前に連携し、既習表現の確認や、担任とALTによるデモンストレーション、ALTと児童のやり取りなどの場面において、担任とALTがそれぞれの役割を意識し、効果的なチーム・ティーチングでの指導を行う。



【研究協議】① 児童のコミュニケーション能力の育成に向けた指導の工夫について

② 外国語教育を充実させるための手立てやアイデアについて

<協議内容>

- 中間指導を入れることで、目指す姿へ近付けていくことができると分かり、所属校でも生かしていきたいと思った。
- 児童が発言するための黒板のレイアウトの工夫や、デモンストレーションで対比するなど、子どもに自分で気付かせるための工夫がとてもよいと思った。
- 担任の先生とALTのやり取りが何より児童にとってよいモデルとなっていた。「先生と話したい!」、「友達と話したい!」という思いのよく見える学級の雰囲気参考になった。



【講話・交流・協議】「児童生徒のコミュニケーション能力の育成に向けた外国語科の授業づくりについて」

庄原市教育委員会 教育指導課 指導主事 福原 理恵

■小中連携の視点から外国語科の授業づくりのポイントについて理解を深めるとともに、それぞれの校区で小学校と中学校の円滑な接続に向けた指導について交流・協議を行った。

☑言語活動を通して指導をすること

☑単元のゴールを明確にし、段階的な目標を設定すること



【参加者の振り返りより】

- ・ どのような単元終末の言語活動を設定していくのか、目指す姿はどのような姿なのかを明確にしていくことが大切であると改めて感じた。同じ中学校区で連携を取ることで、共通して取り組んだ方がよいことや、交流活動などが仕組みないかなど、話をすることができたので、今後それを活用していきたい。
- ・ 小学校の学習内容を見たとき、中学校第1学年の内容とほぼ重なることが分かった。そのため、小学校での学びを活用するために、小学校の教科書の内容を中学校でも使いながら、円滑な接続を図りたい。
- ・ 小中連携はもとより、校内でも既習事項の共有を全教職員で行うことが必要だと感じた。